

kashiwa

柏市が皆さまにお伝えしたいこと

未来へつなぐ平和のバトン 柏の地に残る戦争の記憶



【注目情報】

P11 6月補正予算の概要

CONTENTS
— 目次 —

特集

04

未来へつなぐ 平和のバトン

柏の地に残る戦争の記憶

Pick Up

市の新しい情報などをお知らせします

セカンドキャリアの相談窓口

Reスタート55+に相談しませんか

10

6月補正予算の概要

11

創業に関する費用を補助

11

2カ月分の水道基本料金を無償化

11

市の職員を募集

12

増尾近隣センター工事に伴い

13

避難所と図書館等が休止

13



編集column

2年前に広島平和記念式典に参加した派遣生たち。高校生になった彼らの座談会に立ち会い、その成長と頼もしさに驚かされました。あの夏に受け取った平和のバトンは、彼らの中でしっかりと未来への決意に変わっていました。今を生きる若者たちの真っすぐな声を、ぜひご一読ください。

掲載情報の見方

時=とき 所=場所 対=対象 定=定員 内=内容 講=講師 費=費用 持=持ち物 申=申し込み 交=交通 他=その他
問=問い合わせ ●費用で特に記載のないものは無料 ●対象や定員に制限のないものは、どなたでも参加可

本誌掲載の二次元コードについて、アクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集しているため個人を特定するものではありません。
この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができます。

バス・タクシー運転士の募集説明会を開催	13
手賀沼花火大会の交通規制にご協力を	13
旧吉田家住宅歴史公園でイベントを開催	14
柏駅前送迎保育ステーションの見学会を開催	14
柏レイソル 新体制で頂点へ ほか	15
Information インフォメーション 情報コーナー	
柏駅前行政サービスセンター・パスポートセンターが臨時休所 街頭防犯カメラの設置費用を補助	16
来年度の認定こども園・幼稚園の園児を募集	17
HPVワクチンの接種はお済みですか	18
「福祉の心」作品展 子どもの絵を募集	18
木造住宅簡易耐震診断相談会	19
千葉ロッテマリーンズ公式戦にご招待	19
パレット柏のイベント・夏のわくわくフェスティバル	21
ファミリーシアター「映画ドラえもん」	23
夏休み子どもスペシャル	24
市民の相談室 ほか	29
連載	
食卓の救世主 時短レスキューレシピ	27
途ch最chのチュー目案件	30
Kashiwa Photo Diary くまの出来事を写真とともに	31
野菜チャージ 今日、食べたい柏の一軒	32

市長の スマイル通信

vol.55

安全でおいしい柏の水
毎日の暮らしに安心を

夏休みに入り、子どもたちの楽しそうな声があちこちで聞こえてくる季節となりました。暑い日が続くと、冷たい水で喉を潤したり、帰宅後に手や顔を洗ったりするたびに「水」のありがたさを実感します。

柏市の水道水は定期的な水質検査を行い、52項目全ての水質基準を満たしています。この安全で良質な水は、家庭での暮らしはもちろん、子どもたちが一日の大半を過ごす学校でも、安心して生活を送るために欠かせない存在です。こうした中、近年の猛暑に伴い、熱中症対策が課題となる学校現場からは、多くの子どもたちが水筒を持参しているものの、暑い日はすぐに飲みきってしまう子どもや、ぬるくなった水道水を飲むことに抵抗を感じ、水分補給をためらう子どもも少なくないとの声が届いていました。

そこで市では、子どもたちが気軽に水分補給できるよう、今年度、県内で初めて全ての市立小・中学校に、水道水を活用したウォーターサーバーを設置しました。これにより、子どもたちはいつでも冷たい水を飲むことができ、また水筒が空になっても補充ができるため、大きな水筒を持参する必要がなく、通学時における荷物の軽減にもつながります。

毎日の暮らしの中で当たり前に使われる「水」だからこそ、市ではこれからも、その安全とおいしさを守り続け、子どもたちをはじめ、皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

柏市長

太田 和美



はがき・メール
などの記入内容

①希望する講座・催し名(あるかただけ) ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢
⑤電話番号(電話が困難な場合はファクス番号) ⑥返信面の宛先(往復はがきだけ)

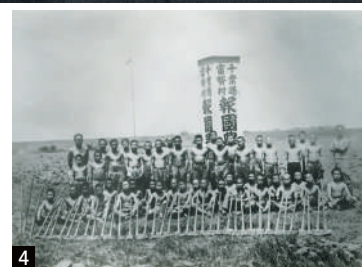
本誌32ページのプレゼントにはがきで応募するかたは、「柏の一軒」と明記し、上記必要事項と、広報かしわ今月号の感想を書いて、〒277-8505 柏市役所広報広聴課へ郵送(必着)で

未来へつなぐ平和のバトン

柏の地に残る戦争の記憶

戦後80年が過ぎ、戦争体験者の声を聞く機会は限られつつあります。私たちが暮らす
柏に残る戦争の記憶や現代を生きる人たちの思いを通して、平和の尊さを見つめ直します。

図 共生交流推進課 ☎ 7167-0941 ・ FAX 7165-7323



1 原爆の朗読劇を見る小学生 2 朗読劇の稽古を重ねる演者たち 3 昭和15～16(1940～1941)年ごろ 柏陸軍病院にて小学生と傷病兵 4 昭和15(1940)年 勤労奉仕に参加した小学生 5 昭和18(1943)年 97式戦闘機と兵士たち 6 令和6年広島派遣生たち

知っていますか 市内に残る戦争の遺跡

子どもたちの元気な声が響き、のどかな街並みが広がる柏。この街にも、戦時中の様子を今に伝える遺跡「戦跡」が残っていることを知っていますか。市内には、戦闘機の燃料庫や飛行場など、当時国を守るためにつくられた拠点の数々が、戦争の記憶として刻まれています。

戦後80年の節目が過ぎ、戦争体験者の高齢化により、直接証言を聞くことができる機会は失われつつあります。このような時代だからこそ、平和の大切さを改めて心に刻み、戦争の記憶を未来へ絶やすことなくつないでいくことが大切ではないでしょうか。

今号では、市内の戦跡をたどりながら、原爆や戦争体験を語り継ぐ人たちの活動と、その思いを受け継ぐ若い世代の声を紹介します。この街に残る記憶や、戦争と平和について真剣に向き合うかたの姿を通して、平和のバトンを未来へつなぐ大切さを考えてみませんか。



私たちの日常に残された 3つの戦争の足跡

私たちが今、当たり前前に過ごしている日常のすぐそばには、かつて戦争の拠点として整備されたもう一つの街の姿がありました。

図文化課 ☎7191-7414 ・ ☎7190-0892

1 空飛ぶ敵機を 光で捉える訓練場

根戸の住宅街にたたずむ、2本の角のような柱が特徴的なコンクリート造りの建物。平成21(2009)年まで消防署の分署だったこの場所は、かつて陸軍の訓練施設でした。

この施設では、襲来する敵の飛行機をいち早く見つけ出すために、箱型の暗い室内にさまざまな時間帯の空や敵機を投影し、狙いを定めるためのシミュレーター訓練を行っていました。

この訓練場を含む広大な敷地は、戦後、富勢中学校や住宅地へと生まれ変わりました。



旧陸軍高射砲第2連隊照空予習室
(施設内は見学できません)



昭和15(1940)年
柏陸軍病院



現在の市立柏病院

2 負傷兵の治療や療養を行う 柏陸軍病院

布施地域で医療を支えている市立柏病院。その起源は、昭和14(1939)年に創設された「柏陸軍病院」にあります。当時、この病院では負傷兵の治療や療養が行われていました。

創設から形を変えながらも、命を救う営みは、今なおこの地に受け継がれています。



昭和19(1944)年
女性防空監視隊員と飛行場格納庫

3 首都を守る広大な飛行場

現在、大学のキャンパスや緑豊かな公園が広がる柏の葉エリアは、かつて、数千人規模の兵士や関係者が従事する、首都防衛を担う広大な「陸軍柏飛行場」でした。

東京から30キロメートル圏に位置する広大な平地と、地元の熱心な誘致運動を背景に、昭和13(1938)年に開設。敷地の広さは、現在の県立柏の葉公園や東京大学、千葉大学を含む、およそ264万平方メートルでおよそ東京ドーム56個分。そこには全長1.5キロメートルものコンクリート滑走路が整備されていました。

十余二には今も、旧柏飛行場の営門が当時の場所に残されています。



現在も残る、旧柏飛行場営門

幻のロケット戦闘機「秋水」しゅうすい

米軍の大型爆撃機B-29による本土空襲の対抗策として
陸海軍が共同開発した有人ロケット戦闘機「秋水」。

柏の葉エリアにあった陸軍柏飛行場周辺に今も残る構造物は、
当時のどのような計画と技術の歴史を物語っているのでしょうか。



昭和20(1945)年7月7日
神奈川県横須賀市の海軍飛行場で行われた秋水試験飛行(写真提供:柴田一哉)



こんぶくろ池自然博物館で保存されている推進剤貯蔵施設跡

B-29迎撃の切り札

昭和19(1944)年7月、サイパン島が陥落したことで、B-29による本土空襲が現実となりました。当時、高度1万メートルを飛行するB-29を迎撃する有効な手段を持たなかった日本軍は、同盟国ドイツのロケット機の技術資料を基に、ロケット戦闘機の開発を進めました。

秋水はロケットエンジンの推進力だけで急上昇する設計で、離陸からわずか3分30秒で高度1万メートルに達し、B-29を攻撃した後は、燃料を使い切って無動力のグライダーとして着陸する計画でした。

特殊燃料の性質と 柏に置かれた貯蔵施設

秋水の実戦配備や飛行訓練、特殊燃料貯蔵の拠点の一つとして選ばれたのが、陸軍柏飛行場でした。

秋水には、1機当たりに80パーセント濃度過酸化水素(甲液)1.5トンの酸化剤と、水加ヒドランジン混合液(乙液)0.5トンの燃料、合計2トンが必要でした。特に危険性が高い「甲液」は、皮膚に付着すればやけどを引き起こし、有機物や特定の金属に触れると発火や大爆発を起こす性質がありました。

推進剤を貯蔵するため、花野井・大室地区にはコンクリート造り、柏の葉には上下水道管(ヒューム管)

を利用した施設が建設されました。当時、柏の葉の貯蔵施設で推進剤の運搬や濃度測定にあたっていた部隊員の中には、17・18歳の少年兵が多くいました。危険を伴う作業は、若い彼らにとって肉体的・精神的に極めて大きな負担であったといえます。

試作機の試験飛行と終戦

昭和20(1945)年7月7日、神奈川県横須賀市の海軍飛行場で、試作機による初の試験飛行が行われましたが、上昇途中でエンジンが停止。滑走路への帰還を試みたものの不時着となり、機体は大破し、テストパイロットは翌日、亡くなりました。

その後、柏飛行場での試験飛行を目指して改良が進められたものの、同年8月15日に終戦、一度の飛行を最後に計画は終えんを迎えました。柏飛行場の滑走路上では多くの機体が焼却され、試験飛行用の秋水や訓練グライダー機も灰となりました。

現在、こんぶくろ池自然博物館などには、推進剤貯蔵施設跡が残っています。静かにたたずむ構造物は、戦争の歴史を現代に伝える貴重な遺跡となっています。

平和の祈りを声にのせて



戦跡や資料から学ぶ戦争の歴史。当時を生きた人たちの記憶や感情は、語り継がれることでより深く私たちの心に響きます。

ここでは、被爆者の手記や詩を朗読劇で伝え続ける市民活動団体「柏・麦わらぼうしの会」の30年の軌跡と、未来へつなぐ思いを伺いました。



代表・井野口典子さん(左)、副代表兼演出担当・正木容子さん

言葉と表情で伝える 原爆の記憶

私たちの活動の始まりは30年前。当時、原爆朗読劇の演出家が「記憶を風化させないために、この台本を使って各地で有志による公演をしてほしい」と呼びかける新聞記事を目にし、「私たち」と決意したことがきっかけでした。その後、毎年夏に公演を重ねる中で、被爆者が残した手記や詩を基に、当時の人たちの思いに寄り添ったオリジナル台本で公演を行うようになりました。

私たちの朗読劇は、単に言葉を読



当時の様子を伝える写真を背景に、朗読をする演者

朗読劇で、世代を超えた つながりを増やしたい

30年も活動しているとうれしい出会いがいくつもあります。かつて舞台に参加した中学生が教師になり、教え子を連れて再び舞台に立つてくれたこともありました。こうした世代を超えたつながりが生まれている今、

むのではなく、姿勢や表情を工夫し、照明・音楽・映像を取り入れながら、当時の人たちの思いや空気が伝わる舞台づくりを心掛けています。

活動開始から14年がたったころ、柏市の平和事業の一環として小学校での公演を始めました。中には涙を流しながら感想を語ってくれる小学生もいて、原爆を経験されたかたの思いが、私たちの声を通して届いていることを強く実感しています。

公演を見た小学生たちの声



逆井小学校6年生
村越さん(左)、
佐々木さん

“ 被爆者の現実や起きたことをしっかり教えていただき、とても勉強になりました。原爆の恐ろしさは想像以上で、これから先も絶対に繰り返しては駄目だと、改めて思いました。 ”

過去を知り、自分と向き合う きっかけにしてほしい

私たちは被爆したかたから直接お話を伺える最後の世代だからこそ、その思いを次の世代へつないでいく使命があると感じています。公演を通して過去の事実を知り、これからどう生きていくかを考えるきっかけにしたらうれしいです。この先も、平和への願いを声にのせて、未来の世代へつないでいきます。

確かな希望を感じています。今後は、受け取った思いを自らの行動につなぐことができる中学・高校生たちに、この朗読劇を届けていくことが、私たちの夢です。

広島への訪問から2年

高校生になった私たちが、 いま語る平和への思い

令和6年、青少年派遣事業で広島平和記念式典や

「ひろしま子ども平和の集い」に参加し、

広島平和記念資料館を見学した中学生たち。

高校生になり、新しい日常を歩む今、あの日に感じたことは、
彼らの中でどのように息づいているのでしょうか。



後列左から、齋藤さん、板坂さん、小松さん
前列左から、渡邊さん、菅原さん、小倉さん

―派遣事業に参加したきっかけは何ですか

齋藤 小学生の時、広島に住んでいた祖母から、近所のおばあさんが原爆で片腕を失ったという話を聞いたことがあります。学校からの募集案内を見た時にそのことを思い出して応募しました。

小倉 歴史の勉強が苦手だったので、この機会に好きになれたらと考えていました。当時、ボランティア委員会で広島に届ける千羽鶴を折っていて、結果的に自分が折った千羽鶴を自分で広島に持つていくことができました。

菅原 学校で募集案内が配られて、「タダで広島に行けるのいいじゃん」と冗談交じりに友達と話していたんですが、いざ応募の作文を書いていると、広島に行ったことも原爆ドームを見たこともないと関心が湧いてきて。それから、私の誕生日がロシアのウクライナ侵攻が始まった日なんです。自分の記念日に世界のどこかで誰かが亡くなっていたんだと思うと痛ましくて、きちんと平和について学びたいと思い、参加しました。

―現地を訪れてみて、強く印象に残っていることを教えてください

小松 資料館で見た写真が忘れられません。小学生の時の平和学習の授業では、怖くて見られず後悔していたのですが、中学生になって実際の

写真を見て、こんなにひどかったのかと実感しました。今でもその写真をスマホに残していて、時々見返して思い出そうにしています。

板坂 資料館に展示されていた、人の影が残っている銀行の階段の実物です。影って普通は残るものじゃないからこそ、確かにそこに一つの命があったんだなというのを実感して、印象に残っています。

渡邊 平和の集いで聞いた、被爆されたおばあさんの話が印象的でした。「辺りいっぱい倒れて亡くなっているかたがいる中、どうしても踏んで歩けなくなくて、だんだん何も思わなくなかった」と話していたんです。そこまで人間の感覚をまひさせるほど悲惨でむごい現実があったことを知り、胸が痛みました。



「ひろしま子ども平和の集い」に参加する生徒たち

―広島へ行く前と後で、自分自身の考え方はどう変わりましたか

菅原 参加する前は、戦争のニュースを見て、自分の住んでいる所の話ではないので大変だなと思うだけで、関心を持たなかったと思います。参加した今は、当時の状況や経験した人の気持ちを知ったことで、世界にはつらい思いをしている人が今もいるんだと考えるようになりました。

小松 学校の授業ではテストのために暗記するだけで、自分事としてこれから生かさないといけないという考えには至らなかったと思います。歴史をただの出来事として片付けるのではなくて、自分事として捉えられるようになったところが一番の違いです。



―平和のために、日常で自分たちができることは何だと思いますか

小倉 現状への不満を持った人や不幸せな人が多くいると、それが戦争につながってしまうのではないかと思います。だから、まずは自分が楽しく生きて、周りの人を楽しませたり生活をより良くしたり、一人一人が自分の日常を平和に生きることがとても大事だと思います。

渡邊 小さな嫌がらせの積み重ねが、大きな戦争に発展していくのかなと思っています。生活の中で、相手の気持ちを考えると、思いやりを持つて接するとか、そういった小さな積み重ねが大切で、平和への思いを持ち続けることが確実な一歩になるのではないかと思います。

齋藤 たくさんの人が話を聞いたり、伝えたりしていくことが大切だと思います。私は英語を学ぶことが好きなので、将来は英語を使って、海外からの観光客に広島で起こったことを伝える活動ができればいいなと思っています。

板坂 考え続けることが大事だと思います。平和の基準は立場によっても国によっても違っていいと思うんです。その上で、一人一人が自分なりの平和の軸を模索し続けることが何より大切だと思うので、私はこれからもその軸を探し続けます。



平和イベント



市内で開催するイベントに参加しませんか。

① 柏で学ぼう!! 夏休み 平和探検隊バスツアー

時 8月19日(水)午前9時～正午

【集合・解散】市役所本庁舎

所 小学5・6年生、先着20人

申 8月1日(土)午前9時から、市のホームページで

② マインクラフトで考える 平和学習ワークショップ

時 8月20日(木)午後1時30分～4時

所 パレット柏 所 小学5・6年生、16人

申 8月1日(土)午前9時～5日(水)正午に、市のホームページで※応募者多数の場合は抽選

③ 夏休み平和図書展示

時 8月5日(水)～27日(木) 所 図書館本館

④ 広島原爆被害 写真等のパネル展示

時 8月4日(火)～17日(月)・25

日(火)～28日(金)午前8時

30分～午後9時※17日・

28日は正午まで

所 パレット柏

⑤ パネル展示 「陸軍柏飛行場と 花野井戦争遺跡」

時 8月14日(金)～9月27日(日)

所 旧吉田家住宅歴史公園



市ホームページ

問 ①～④ = 共生交流推進課 ☎ 7167-0941・FAX 7165-7323

⑤ = 旧吉田家住宅歴史公園 ☎・FAX 7135-7007

平和への一歩を考え、

次の世代へ

子どもたちの声が響く公園も、緑豊かな散歩道も、歴史の上につながっています。街に残る記憶に少しでも視線を向けながら、この穏やかな暮らしを次の世代へどうつないでいくか。この夏、いつもと違う視点で、平和への一歩を考えてみませんか。

もっと 深掘り



本誌5・6ページで紹介した戦跡の詳細な情報や、その他の戦跡、関連資料を掲載しています。



市ホームページ